

ヨシダ製薬のポピヨドン®シリーズ

日本標準商品分類番号:872612

薬価基準収載

無菌医薬品

外用殺菌消毒剤

ポピヨドン®液10%



3. 組成・性状

3.1 組成

有効成分	100mL中 日局ポピドンヨード10g(有効ヨウ素として1gを含む。)
添加剤	ラウロマクロゴール、グリセリン、乳酸ナトリウム液、ヨウ化ナトリウム、pH調整剤

3.2 製剤の性状

性状	暗赤褐色の液で、わずかに特異なおいがある。 無菌製剤である(開栓までの無菌を保証)。
----	---

日本標準商品分類番号:87226

薬価基準収載

含嗽剤

ポピヨドン®ガーグル7%



3. 組成・性状

3.1 組成

有効成分	100mL中 日局ポピドンヨード7g(有効ヨウ素として0.7gを含む。)
添加剤	エタノール、サッカリンナトリウム水和物、香料

3.2 製剤の性状

性状	赤褐色の液で、特異な芳香がある。
----	------------------

日本標準商品分類番号:872612

薬価基準収載

外用殺菌消毒剤

ポピヨドン®ゲル10%



3. 組成・性状

3.1 組成

有効成分	1000g中 日局ポピドンヨード100g(有効ヨウ素として10gを含む。)
添加剤	マクロゴール400、マクロゴール4000、pH調整剤

3.2 製剤の性状

性状	黒褐色である。
----	---------

日本標準商品分類番号:872612

薬価基準収載

無菌医薬品

エタノール含有

外用殺菌消毒剤

ポピヨドン®フィールド10%



3. 組成・性状

3.1 組成

有効成分	100mL中 日局ポピドンヨード10g(有効ヨウ素として1gを含む。)
添加剤	エタノール、ヨウ化ナトリウム、pH調整剤

3.2 製剤の性状

性状	黒褐色の液剤で、特異なおいに有する。 無菌製剤である(開栓までの無菌を保証)。
----	--

日本標準商品分類番号:872612

薬価基準収載

無菌医薬品

外用殺菌消毒剤

ポピヨドン®スクラブ7.5%



3. 組成・性状

3.1 組成

有効成分	100mL中 日局ポピドンヨード7.5g(有効ヨウ素として0.75gを含む。)
添加剤	ポリオキシエチレンノニルフェニルエーテル硫酸アンモニウム、ラウロマクロゴール、ラウリン酸ジエタノールアミド、モノラウリン酸ポリエチレングリコール、ヨウ化ナトリウム、ヨウ化カリウム、pH調整剤

3.2 製剤の性状

性状	黒褐色の粘性の液である。 無菌製剤である(開栓までの無菌を保証)。
----	--------------------------------------

2. 禁忌 (次の患者には投与しないこと)
本剤又はヨウ素に対し過敏症の既往歴のある患者

9.特定の背景を有する患者に関する注意、11.副作用、12.臨床検査結果に及ぼす影響、14.適用上の注意、15.その他の注意、20.取扱い上の注意、22.包装は裏面のDIをご参照ください。

※ポピヨドン®液10%、ポピヨドン®ガーグル7%、ポピヨドン®ゲル10%のみ

ご使用にあたって

大量かつ長時間の接触によって接触皮膚炎、皮膚変色があらわれることがあるので、溶液の状態で長時間皮膚と接触させないこと。本剤が手術時に体の下にたまった状態や、ガーゼ・シーツ等にしみ込み湿った状態で、長時間皮膚と接触しないよう消毒後は拭き取るか乾燥させるなど注意すること。

4. 効能又は効果

手術部位(手術野)の皮膚の消毒、手術部位(手術野)の粘膜の消毒

6. 用法及び用量

→ 本剤を塗布する。

皮膚・粘膜の創傷部位の消毒、熱傷皮膚面の消毒、感染皮膚面の消毒

→ 本剤を患部に塗布する。

ご使用方法(30mL製品)



本剤1～2目盛を
コップに入れる



コップ約1/3まで
水でうすめる



1日に数回
うがいする

本剤2mL(1目盛)～4mL(2目盛)を水約60mL(普通のコップの約1/3)にうすめて、1日数回うがいしてください(15～30倍にうすめる)。

4. 効能又は効果

咽頭炎、扁桃炎、口内炎、抜歯創を含む口腔創傷の感染予防、口腔内の消毒

6. 用法及び用量

用時15～30倍(2～4mLを約60mLの水)に希釈し、1日数回含嗽する。

ご使用にあたって

- ①90gチューブからゆっくり押し出した長さ1cmは約0.2gですので、使用量のめやすにしてください。
- ②ご使用後はチューブの口元をきれいにふきとり、しっかりとふたを閉めてください。

4. 効能又は効果

皮膚・粘膜の創傷部位の消毒、熱傷皮膚面の消毒

6. 用法及び用量

本剤を患部に塗布する。

ご使用にあたって

エタノールを含有しているので、電気メスを使用する場合には、本剤を乾燥させ、エタノール蒸気の拡散を確認してから使用すること。特にドレープ(覆い布)等の使用時には、本剤が液状として残ったり、ドレープ下に気化したエタノール蒸気が充満することで、引火しやすくなるおそれがある。

4. 効能又は効果

手術部位(手術野)の皮膚の消毒

6. 用法及び用量

本剤を塗布する。

ご使用方法

<ツーステージ・サージカル・スクラブ法(ツーステージ法)>

① 消毒薬配合スクラブ剤による手洗い

手洗い後、(滅菌)ペーパータオルで水分を取ります



② 速乾性擦式手指消毒剤で消毒

アルコールが乾燥したら完了



4. 効能又は効果

手指・皮膚の消毒

6. 用法及び用量

→ 本剤の適量を用い、少量の水を加えて摩擦し、よく泡立たせたのち、流水で洗う。

手術部位(手術野)の皮膚の消毒

→ 本剤を塗布するか、又は少量の水を加えて摩擦し、泡立たせたのち、滅菌ガーゼで拭う。



ヨシダ製薬

外用殺菌消毒剤

ポピヨドン®液10%

Popiyodon Solution 10% ポピドンヨード製剤

2. 禁忌（次の患者には投与しないこと）
本剤又はヨウ素に対し過敏症の既往歴のある患者

9. 特定の背景を有する患者に関する注意

- 9.1 合併症・既往歴等のある患者
- 9.1.1 甲状腺機能に異常のある患者
血中ヨウ素の調節ができず甲状腺ホルモン関連物質に影響を与えるおそれがある。
- 9.1.2 重症の熱傷患者
ヨウ素の吸収により、血中ヨウ素値が上昇することがある。
- 9.5 妊婦
妊婦または妊娠している可能性のある女性には、治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。
長期にわたる広範囲の使用を避けること。
本剤を妊婦の腔内に長期間使用し、新生児に一過性の甲状腺機能低下があらわれたとの報告がある。
- 9.6 授乳婦
治療上の有益性及び母乳栄養の有益性を考慮し、授乳の継続又は中止を検討すること。
長期にわたる広範囲の使用を避けること。
ポピドンヨード製剤を腔内に使用し、乳汁中の総ヨウ素値が一過性に上昇したとの報告がある。
- 9.7 小児等
本剤を新生児に使用し、一過性の甲状腺機能低下を起こしたとの報告がある。

11. 副作用

次の副作用があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

- 11.1 重大な副作用
- 11.1.1 ショック(0.1%未満)、アナフィラキシー(0.1%未満)
呼吸困難、不快感、浮腫、潮紅、蕁麻疹等があらわれることがある。

日本標準商品分類番号	872612
承認番号	22000AMX01394000
販売開始	1987年12月
薬価収載	2008年7月(販売名変更による)

貯法：室温保存
有効期間：3年

11.2 その他の副作用	0.1%未満
過敏症	発疹
皮膚	接触皮膚炎、そう痒感、灼熱感、皮膚潰瘍、皮膚変色
甲状腺	血中甲状腺ホルモン値(T ₃ 、T ₄ 値等)の上昇あるいは低下などの甲状腺機能異常

12. 臨床検査結果に及ぼす影響

酸化反応を利用した潜血試験において、本剤が検体に混入すると偽陽性を示すことがある。

14. 適用上の注意

- 14.1 薬剤使用時の注意
- 14.1.1 本剤は外用消毒剤であるので、経口投与、吸入、注射、眼及び体腔内(腹腔内、胸腔内等)に使用しないこと。
- 14.1.2 大量かつ長時間の接触によって接触皮膚炎、皮膚変色があらわれることがあるので、溶液の状態で長時間皮膚と接触させないこと。本剤が手術時に体の下にたまった状態や、ガーゼ・シーツ等にしみ込み湿った状態で、長時間皮膚と接触しないよう消毒後は拭き取るか乾燥させるなど注意すること。
- 14.1.3 眼に入らないように注意すること。入った場合には、水でよく洗い流すこと。
- 14.1.4 深い創傷に使用する場合は希釈液としては生理食塩液か注射用水を用い、水道水や精製水を用いないこと。
- 14.1.5 石けん類は本剤の殺菌作用を弱めるので、石けん分を洗い落としてから使用すること。
- 14.1.6 電気的な絶縁性をもっているため、電気メスを使用する場合には、本剤が対極板と皮膚の間に入らないよう注意すること。

15. その他の注意

- 15.1 臨床使用に基づく情報
ポピドンヨード製剤を腔内に使用し、血中総ヨウ素値及び血中無機ヨウ素値が一過性に上昇したとの報告がある。

20. 取扱い上の注意

直射日光を避けて保存すること。

22. 包装

250mL(ポリ容器)、500mL(ポリ容器)

2024年3月改訂(第1版)

含嗽剤

ポピヨドン®ガール7%

Popiyodon Gargle 7% ポピドンヨード製剤

2. 禁忌（次の患者には投与しないこと）
本剤又はヨウ素に対し過敏症の既往歴のある患者

9. 特定の背景を有する患者に関する注意

- 9.1 合併症・既往歴等のある患者
- 9.1.1 甲状腺機能に異常のある患者
血中ヨウ素の調節ができず甲状腺ホルモン関連物質に影響を与えるおそれがある。
11. 副作用
- 次の副作用があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止するなど適切な処置を行うこと。
- 11.1 重大な副作用
- 11.1.1 ショック(0.1%未満)、アナフィラキシー(0.1%未満)
呼吸困難、不快感、浮腫、潮紅、蕁麻疹等があらわれることがある。

日本標準商品分類番号	87226
承認番号	22000AMX00323000
販売開始	1988年10月
薬価収載	2008年6月(販売名変更による)

貯法：室温保存
有効期間：3年

11.2 その他の副作用	0.1～5%未満	0.1%未満
過敏症	—	発疹
口腔	口腔、咽頭の刺激感	口腔粘膜びらん、口中のあれ
消化器	悪心	—
その他	—	不快感

14. 適用上の注意

- 14.1 薬剤使用時の注意
- 14.1.1 用時希釈し、希釈後は早めに使用すること。
- 14.1.2 抜歯後等の口腔創傷の場合、血餅の形成が阻害されると考えられる時期には、はげしい洗口を避けること。
- 14.1.3 眼に入らないように注意すること。入った場合には、水でよく洗い流すこと。

20. 取扱い上の注意

外箱開封後は、直射日光を避けて保存すること。

22. 包装

30mL(ポリ容器)×50、250mL(ポリ容器)

2024年3月改訂(第1版)

外用殺菌消毒剤

ポピヨドン®ゲル10%

Popiyodon Gel 10% ポピドンヨード製剤

2. 禁忌（次の患者には投与しないこと）
本剤又はヨウ素に対し過敏症の既往歴のある患者

9. 特定の背景を有する患者に関する注意

- 9.1 合併症・既往歴等のある患者
- 9.1.1 甲状腺機能に異常のある患者
血中ヨウ素の調節ができず甲状腺ホルモン関連物質に影響を与えるおそれがある。
- 9.1.2 重症の熱傷患者
ヨウ素の吸収により、血中ヨウ素値が上昇することがある。
- 9.5 妊婦
妊婦または妊娠している可能性のある女性には、治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。
長期にわたる広範囲の使用を避けること。
ポピドンヨード製剤を妊婦の腔内に長期間使用し、新生児に一過性の甲状腺機能低下があらわれたとの報告がある。
- 9.6 授乳婦
治療上の有益性及び母乳栄養の有益性を考慮し、授乳の継続又は中止を検討すること。
長期にわたる広範囲の使用を避けること。
ポピドンヨード製剤を腔内に使用し、乳汁中の総ヨウ素値が一過性に上昇したとの報告がある。
- 9.7 小児等
ポピドンヨード製剤を新生児に使用し、一過性の甲状腺機能低下を起こしたとの報告がある。

11. 副作用

次の副作用があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

- 11.1 重大な副作用

日本標準商品分類番号	872612
承認番号	22000AMX00324000
販売開始	1992年10月
薬価収載	2008年6月(販売名変更による)

貯法：室温保存
有効期間：3年

11.1 ショック(0.1%未満)、アナフィラキシー(0.1%未満) 呼吸困難、不快感、浮腫、潮紅、蕁麻疹等があらわれることがある。	
11.2 その他の副作用	0.1%未満
過敏症	発疹
皮膚	接触皮膚炎、そう痒感、灼熱感、皮膚潰瘍
甲状腺	血中甲状腺ホルモン値(T ₃ 、T ₄ 値等)の上昇あるいは低下などの甲状腺機能異常

12. 臨床検査結果に及ぼす影響

酸化反応を利用した潜血試験において、本剤が検体に混入すると偽陽性を示すことがある。

14. 適用上の注意

- 14.1 薬剤使用時の注意
- 14.1.1 眼に入らないように注意すること。入った場合には、水でよく洗い流すこと。
- 14.1.2 石けん類は本剤の殺菌作用を弱めるので、石けん分を洗い落としてから使用すること。
- 14.1.3 電気的な絶縁性をもっているため、電気メスを使用する場合には、本剤が対極板と皮膚の間に入らないよう注意すること。

15. その他の注意

- 15.1 臨床使用に基づく情報
ポピドンヨード製剤を腔内に使用し、血中総ヨウ素値及び血中無機ヨウ素値が一過性に上昇したとの報告がある。

20. 取扱い上の注意

直射日光を避けて保存すること。

22. 包装

90g(チューブ)

2024年3月改訂(第1版)

■詳細は電子添文をご参照ください。
■電子添文の改訂に十分ご留意ください。

3.組成・性状、4.効能又は効果、6.用法及び用量は表面をご参照ください。

日本標準商品分類番号	872612
承認番号	22000AMX00325000
販売開始	1995年9月
薬価収載	2008年6月(販売名変更による)

貯法：室温保存
有効期間：3年

9. 特定の背景を有する患者に関する注意

9.1 合併症・既往歴等のある患者

9.1.1 本剤又はヨウ素に対し過敏症の既往歴のある患者

9.1.2 甲状腺機能に異常のある患者

9.7 小児等

11. 副作用

11.1 重大な副作用

11.1.1 ショック(0.1%未満)、アナフィラキシー(0.1%未満)

11.2 その他の副作用

12. 臨床検査結果に及ぼす影響

14. 適用上の注意

14.1 薬剤使用時の注意

14.1.1 エタノールによる刺激作用を有するため、損傷・創傷皮膚及び粘膜には使用しないこと。

14.1.2 大量かつ長時間の接触によって接触皮膚炎、皮膚変色があられることがあるので、溶液の状態で長時間皮膚と接触させないこと。

14.1.3 眼に入らないように注意すること。

14.1.4 石けん類は本剤の殺菌作用を弱めるので、石けん分を洗い落としてから使用すること。

14.1.5 電気的な絶縁性をもっているため、電気メスを使用する場合には、本剤が対極板と皮膚の間に入らないよう注意すること。

14.1.6 エタノールを含有しているため、電気メスを使用する場合には、本剤を乾燥させ、エタノール蒸気の拡散を確認してから使用すること。

20. 取扱い上の注意

22. 包装

2024年3月改訂(第1版)

日本標準商品分類番号	872612
承認番号	21400AMZ00307000
販売開始	1995年9月
薬価収載	2002年7月(販売名変更による)

貯法：室温保存
有効期間：3年

9. 特定の背景を有する患者に関する注意

9.1 合併症・既往歴等のある患者

9.1.1 本剤又はヨウ素に対し過敏症の既往歴のある患者

9.1.2 甲状腺機能に異常のある患者

9.5 妊婦

9.6 授乳婦

9.7 小児等

11. 副作用

11.1 重大な副作用

11.1.1 ショック(0.1%未満)、アナフィラキシー(0.1%未満)

11.2 その他の副作用

12. 臨床検査結果に及ぼす影響

14. 適用上の注意

14.1 薬剤使用時の注意

14.1.1 損傷・創傷皮膚及び粘膜には使用しないこと。

14.1.2 眼に入らないように注意すること。

14.1.3 石けん類は本剤の殺菌作用を弱めるので、石けん分を洗い落としてから使用すること。

14.1.4 電気的な絶縁性をもっているため、電気メスを使用する場合には、本剤が対極板と皮膚の間に入らないよう注意すること。

20. 取扱い上の注意

22. 包装

2024年3月改訂(第1版)

■詳細は電子添文をご参照ください。
■電子添文の改訂に十分ご留意ください。

3.組成・性状、4.効能又は効果、6.用法及び用量は表面をご参照ください。

その他のポピドンヨード製剤

ポピヨドン® 10%綿棒12・16

ポピヨドン® フィールド10%綿棒

プッシュ綿棒P

ポピコットン棒

ハイポアルコール